

BSL4 施設で実施される研究計画について

(第9回協議会配付資料)

1. 研究課題名

重症熱性血小板減少症候群ウイルスに感染したサルに対する抗血清の効果に関する研究

2. 研究の必要性

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、2013年1月に日本で流行していることが確認された新興ウイルス感染症の一つであり、ヒトはSFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染する。2016年1月までに、日本では西日本を中心に患者が報告され、170名を超える患者が確認されているほか、北海道、東北、関東などでもウイルスを保有するマダニが見つまっている。致死率は約30%と極めて高く、現在のところ有効な治療法やワクチンは存在せず、治療法の開発が急務である。

3. 研究目的

国立感染症研究所では、これまでマウスを用いてSFTSに対する治療薬の研究を行い、良好な成果を得てきており、より人に近い霊長類における治療薬候補品の効果を検証することを目的とする。

4. 研究計画に係る承認手続

別紙のとおり、研究責任者から提出された研究計画については、国立感染症研究所の各研究部内で審査された後、関係する各委員会の審査を経て、必要な許可・承認を得ることとされている。この研究計画についても、これらの手続を経て、3月1日には、外部委員を含む高度封じ込め施設運営委員会において承認された。

5. 研究期間

承認後概ね2ヶ月で終了予定

6. 取扱う病原体

SFTS ウイルス(レベル3)

7. 高度封じ込め施設において当該研究を行うことの必要性

SFTS ウイルスは、致死率が約30%の全身感染症を引き起こすウイルスであり、BSL-3以上の安全性が確保された施設で研究する必要がある。これまで動物を使ったSFTSの治療法の研究は、研究従事者がより安全に研究を実施できるよう高度封じ込め施設で行っており、今回の研究についても当該施設で行うことが妥当。また、昨年BSL4施設としての指定を受けていることから、今回の研究はレベル4での運用を行い、より安全性に配慮した研究を行う。